

SON-DAY, AUGUST 29th, 2010 MORNING WORSHIP SERVICE

単立キリスト教会 マラナサ・グレイス・フェローシップ Maranatha Grace Fellowship [MGF] Since Jan. 18, 2004

牧師: 菊地 一徳 (かずなり) 教会所在地: 〒381-0084 長野市若槻東条 541-2 フカサワビル2F 長野クリスチャンセンター内

www.mgf-jc.com mgfchurch@ybb.ne.jp / 電話、郵便物は菊地宅まで 〒381-2247 長野市青木島 1-32-17 電/Fax:026-285-4713

礼拝黙想 Meditating on Worship

A 現代社会は人々を精神的に、身体的に疲れさせる時代である。小学生でも、「疲れた、疲れた」と連発する。若者たちも、何かしらけだるさを覚えている。大人も、経済的な問題、職場での人間関係、家庭の問題、親子の関係等々、いろいろな問題や重荷、悩みを抱えている。中高年の男性の自殺が急増している。「もう、疲れた」と言いながら、この世の生を終える。その遺児たちが、街頭で「私たちのような苦しみを味わう人がいなくなって欲しい」と道ゆく人々に訴える。政治への、社会への、会社への、悲痛な叫びだ。

以下は著名人の重荷にまつわる名言集。

「心の苦悩は肉体の苦痛より重荷だ。」
(プブリウス・シルス BCI 世紀・古代ローマの喜劇作家・詩人)

「人の一生は重荷を負って遠き道をゆくが如し いそぐべからず 不自由を常とおもへば不足なし ところに望みおこらば困窮したる時を思い出すべし 堪忍は無事長久の基 いかりは敵とおもへ 勝事ばかり知りてまくる事をしられれば害其身にいたる おのれを責て人をせむるな 及ばざるは過たるよりまされり」(徳川家康、1543~1616年、江戸幕府初代征夷大将軍)

「悲しみの重荷にあがく者には、誰でも辛抱と説き聞かせる、だがどんなに立派な美德と才能を持つ者でも、ひとたび自分が同じ重荷を背負うとなると、辛抱などしきれものではない」(ウィリアム・シェイクスピア、1564~1616年、イギリスの劇作家、詩人)

「貧しい者は、自分の人生を不公正な重荷と捉えたときに、深い苦悩の中へと落ち込んでいく。」(ジェームズ・W・ヤング 1886~1973年、アメリカ最大の広告代理店・トムソン社の常任最高顧問、アメリカ広告代理業協会の会長などを歴任。広告審議会(AC)の設立者で元チェアマン)

「一つの嘘をつく者は、自分がどんな重荷を背負い込むのかについて滅多に気がつかない。」(ジョンソン・スウィフト、1667~1745年、イギリスの英国国教会司祭、諷刺作家『ガリヴァー旅行記』作者)

「欲望の荷を負いすぎているものは、小さな喜びを買うにも苦しみかつ損をする。」(セバスチャン・シャンフォール、1741~1794年、フランスの文学者)

「過去を忘れ、心から怒りを消し去れ。どんな強い人間もそんな重荷に耐え続けることは出来ない。」(アントン・チェホフ、1860~1904年、ロシアを代表する劇作家、短編小説家)

「お金や名声は一度手に入れた後は重荷になる。人生に必要なのは素晴らしい思い出と精神的な豊かさだ」(スティーヴ・ルカサー、1957年~、アメリカのミュージシャン、ギタリスト、ボーカリスト、作曲家)

「義務の重荷から我々を解放する事のできるの、良心的な実行のみである。」(ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ、1749~1832年、ドイツの詩人、劇作家、小説家、哲学者、自然科学者、政治家、法律家)

「昨日の重荷に加えて、明日の重荷まで今日のうちに背負うとしたら、どんな強い人でもつまづいてしまうでしょ

う。」(ウィリアム・オスラー、1849~1919年、カナダの医学者、内科医。今日の医学教育の基礎を築いた)

「私は、シャカヤ、プラトンや、その他の賢人たちの書中に多くの感動する名言を見出した。しかしながら、まだだれからも『疲れた者、重荷を負う者は、わたしのもとに來なさい』という声を聞かなかった。」(アウグスティヌス 354~430年、古代キリスト教の神学者、哲学者、説教者、ラテン教父)

「神である主、イスラエルの聖なる方は、こう仰せられる。『立ち返って静かにすれば、あなたがたは救われ、落ちて、信賴すれば、あなたがたは力を得る。』しかし、あなたがたは、これを望まなかった。あなたがたは言った。『いや、私たちは馬に乗って逃げよう。』それなら、あなたがたは逃げてみよう。『私たちは早馬に乗って。』それなら、あなたがたの追っ手はなお速い。ひとりのおどしによって千人が逃げ、五人のおどしによってあなたがたが逃げ、ついに、山の頂の旗ざお、丘の上の旗ぐらいしか残るまい。それゆえ、主はあなたがたに恵もうと待っておられ、あなたがたをあわれもうと立ち上がられる。主は正義の神であるからだ。幸いなことよ。主を待ち望むすべての者は。ああ、シオンの民、エルサレムに住む者。もうあなたは泣くことはない。あなたの叫び声にに応じて、主は必ずあなたに恵み、それを聞かれるとすぐ、あなたに答えてくださる。たとい主があなたがたに、乏しいパンとわずかな水とを賜わっても、あなたの教師はもう隠れることなく、あなたの目はあなたの教師を見続けよう。あなたが

「教会【マラナサ・グレイス・フェローシップ(略称:MGF)】はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです」(エペソ1:23)。「そしてあなたがた【MGF】は、キリストにあって、満ち満ちているのです。キリストはすべての支配と権威のかしらです」(コロサイ2:10)。

右に行くにも左に行くにも、あなたの耳はうしろから『これが道だ。これに歩め。』と言うことばを聞く。」(イザヤ30:15~20)

以下は、上記の聖句に啓発されたスイスの法学者、哲学者、政治家カール・ヒルティ(1833~1909年)の言葉。

主はあなたに恵みを施される日を待っておられる。だから、あなたはいたずらに心配をしたり、いろいろ将来の計画を立てたりして、そのために、最もよい仕事の時間を多くつぶすことは全くいらない。神を信じて、神の道を誠実に進もうと努めるならば、万事はひとりでの、しかもあなたが予期するよりも、はるかにうまく運ぶのである。これによって人生は非常に楽になる。なぜなら、起るかもしれない不幸に対する心配は、ぜひとも忍ばねばならない現実の不幸よりも、一層ひどくひとの力を消耗させるからである。実際の不幸は、しばしば外的な手段や努力によって打ち勝つこともできるが、しかし心配は神への強い信頼によってしか徹底的に打ち勝つことができない。このような経験はだれでも持つことができる。

しかし十分信仰心の篤い人たちの中にも、その誠実な信仰心にもかかわらず、絶えずいろいろと心配しながら生活し、その上、多くの事柄では、全く世間なみの道を歩み、特にこの世の財宝を高く評価する点でも、世間と同じ考え方をしている者がいる。この点を別とすれば、実に敬虔な意向をもった、このような金持ちの、また身分の高いキリスト者が、今日では非常に大勢いる、こうした人々に対して、神は恩寵をはっきり表わすことを、しばらく差し控えるこ

とが確かにある。というのは、同時に神と財宝とを頼みとすることはできないからである。いずれか一つが心の中から消え去らねばならない。そこには「妥協」ということはあり得ないのである。

あなたの憂いをすべて主にゆだねよ、主はあなたに代わり配慮される。

あなたの家族のための憂いをわれらの信ずる主にゆだねよ
あなたはいたずらに策を案じ考えるだけだ、
しかし主には行く道と将来が開かれてある。

主は心配をきらうが、あなたがささげ
る
天に向かっての祈りは喜んで聞き給う。
あなたがやっと一つの策を立てる間に
主は千もの策を持ってられる。

なにびとも勝手気ままに
あなたを害することのないように、
主はあなたへの恵みのために
みんなの心を小川のように導かれる

主の御手から苦しみも喜びも
安んじて受け、ひるんではならない。
主はあなたの運命をすぐにも変えられる。
しかしそれを悪くするのは、あなた
の嘆きだ。

いたずらにあなたを苦しめるために
苦難が与えられたのではない。
信じなさい。まことの生命は
悲しみの日に植えられることを。

『眠られぬ夜のために 第一部』(カール・ヒルティ著)より

「あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるからです。」(1ペテロ5:7)

「何も思い煩わないで、あらゆるばあいに、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。」(ピリピ4:6,7)

「ほむべきかな。日々、私たちのために、重荷をになわれる主。私たちの救いであられる神。」(詩篇68:19)

「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。」(マタイ11:28 イエス・キリスト)

デンマークの哲学者セーレン・オービエ・キェルケゴール(1813~1855年)は「もう来ることができぬというほどに不幸な人が、果たしているであろうか。おお、ただ一つの嘆息だけで十分である。君が彼(イエス)に向かって嘆息すること、それもまた御許に来ることである。(イエスの招き)」と言っている。疲れた者、重荷を負っている者が、イエスに向かって、「ああ」と嘆息して呼び掛けるだけでよいと言っているのだ。

「重荷が人を押し潰すのではない。背負い方が問題なのだ。」(Dreams Come True、日本のバンド) Ω

《お知らせ》

●9月26日(日) 午前礼拝)午前10:30~/昼食・交わり)午後12:00~/夕礼拝)午後4:30~

「教会[マラナサ・グレイス・フェローシップ(略称:MGF)]はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです」(エペソ1:23)。「そしてあなたがた[MGF]は、キリストにあって、満ち満ちているのです。キリストはすべての支配と権威のかしらです」(コロサイ2:10)。